



トレースの使用法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [トレースの概要 \(P.3-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定 \(P.3-2\)](#)
- [マイクロ トレースの有効化 \(P.3-3\)](#)
- [使用可能なマイクロ トレース \(P.3-4\)](#)
- [マクロ トレースの有効化 \(P.3-7\)](#)
- [使用可能なマクロ トレース \(P.3-8\)](#)
- [参考情報 \(P.3-8\)](#)

トレースの概要

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、Cisco Unity Connection の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

- コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成できるログ ファイルの最大数や最大ファイル サイズなどのログ ファイル パラメータを、Cisco Unity Connection コンポーネントごとに指定できます。
- 必要なマイクロ トレースおよびマイクロ トレース情報のレベルを有効にできます。
- 必要なマクロ トレース (事前を選択されたマクロ トレースのグループ) およびマクロ トレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にした後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用してトレース ログ ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』の「RTMT での Trace and Log Central の設定」の章を参照してください。



(注)

マクロ トレースまたはマイクロ トレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

トレース ログ ファイルの設定

Cisco Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、次の手順を実行します。



(注)

トレース情報がログファイルに書き込まれるようにするには、まず、選択した領域でトラブルシューティング情報を提供するマイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にする必要があります。

トレース ログ ファイルを設定する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、**[Trace]** > **[Configuration]** をクリックします。

[Trace Configuration] ページが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして **[Go]** をクリックします。

ステップ 3 [Component] ドロップダウン ボックスから、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択し、**[Go]** をクリックします。



(注)

ドロップダウン ボックスにすべてのコンポーネント (アクティブおよび非アクティブ) が表示されます。

ステップ 4 [Maximum No. of Files] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルの最大数を入力します。

ステップ 5 [Maximum File Size] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルのサイズの上限 (メガバイト単位) を入力します。

ステップ 6 デフォルト設定に戻す場合は、**[Set Default]** をクリックします。それ以外の場合は、次のステップに進みます。

ステップ 7 **[Save]** をクリックします。

ステップ 8 このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルに替えたい場合は、**[Restart Log Files]** をクリックします。



ヒント

ログ ファイルを設定してトレースを有効にした後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用してトレース ログ ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』の「RTMT での Trace and Log Central の設定」の章を参照してください。

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

マイクロトレースの有効化

マイクロトレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Alert Central ツールでエラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行するとシステムパフォーマンスとハードドライブスペースに影響が及ぶことに留意してください。



(注)

マイクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マイクロトレースを有効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Micro Traces] を選択します。

[Micro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] をクリックします。
- ステップ 3** [Micro Trace] ドロップダウンボックスで、有効にするマイクロトレースをクリックして、[Go] をクリックします。
- ステップ 4** [Micro-Trace Levels] の下で、有効にするマイクロトレースレベルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント

Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Cisco Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

使用可能なマイクロトレース

表 3-1 で、使用可能なマイクロトレースのリストを示し、それぞれのマイクロトレースの分析内容を説明します。

表 3-1 マイクロトレース

マイクロトレース名	トレースの分析内容
Arbiter	コールに使用されるカンパセッション、ポート、およびコールルーティングルール
AudioStore	Media Master を使用してオーディオストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションによって使用されるオーディオ録音サービス
AxlAccess	電話関連のプロパティを取得および設定するための AXL サーバとの対話
BulkAdministrationTool	複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool
CCL	Cisco Unified MeetingPlace Express からの会議情報の取得
CDE	カンパセッションエンジンおよびカンパセッションイベント
CDL	データベースからの情報の取得
CML	Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得。テキスト / スピーチ機能を使用して電子メールメッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得 (IMAP を使用)。
CiscoPCA	Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA)
Common	Cisco Unity Connection サービスによって共有されるコンポーネント用の低レベルアクティビティ
ConfigData	データベース内で更新された設定データの検出
ConvRoutingRules	Arbiter によるコールの転送先となるカンパセッション
ConvSub	ユーザアクティビティおよび使用状況
CsLicense	ライセンスの処理に関連する機能
CsMalUmss	CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージストアへのアクセス
CuCcmSynchronizationTasks	Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化
CuCsMgr	Cisco Unity Connection の主要プロセス。Connection の起動と停止。
CuEncrypt	暗号化 (メッセージングを除く) と暗号化監査ログ
CuGal	Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得
CuImapSvr	IMAP クライアントによるボイスメッセージへのアクセス
CuService	Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ
Cuca	Cisco Unity Connection の管理のアクティビティ
DataSysAgentTasks	SysAgent タスク
DbEvent	データベース変更のコンポーネント通知
FailureConv	システムエラーが発生した場合の失敗カンパセッションのアクティベーション
LicenseClient	ライセンス管理に関連する機能
Logger	トレース、ログ、およびイベントの書き込み
MTA	メッセージストアへのボイスメッセージの送信

表 3-1 マイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
MediaMasterControl	クライアントワークステーションでの Media Master コントロール
MediaMasterUMS	Media Master と AudioStore の間でストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス
MediaMasterWeb	Media Master コントロールを持つ Web ベースのアプリケーションで使用される Web ページ レンダリング モジュール
MiuAdm	ボイス メッセージ ポートのテストおよび証明書生成に関連する Cisco Unity Connection の管理内の機能
MiuCall	Miu とカンバセーションの間のプロセス
MiuDatatbase	データベースへのアクセスに関連するメディア アクティビティ
MiuGeneral	電話ユーザ インターフェイス (TUI) によるコールのトラッキング、コール コントロール機能、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuIO	TAPI (回線交換または Cisco Unified CallManager) 連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用量
MiuMethods	着信コールの受け渡し、コール コントロール、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuSIP	SIP コール コントロール
MiuSIPStack	コール コントロールのための低レベル SIP 対話
MiuSkinny	SCCP コール コントロール
MiuTranscode	トランスコーディングに関連する低レベル メディア機能
Mixer	メディアおよびテキスト / スピーチ機能に関連する低レベル アクティビティ
Monitor	コール中のボイス メッセージ ポートおよびコール処理のステータスの監視。Real-Time Monitoring Tool にポート ステータスを表示するためのサーバ側の機能。
Notifier	メッセージおよび選択されたイベントの通知、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
PCAMeetingPlace	Cisco Unified MeetingPlace Express 連動に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PCUnifiedCM	Cisco Unified Communications Manager 連動に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PerfMonitor	Cisco Unity Connection が使用するパフォーマンス モニタ システム オブジェクトのアクティビティ
PhoneManager	IP 電話アプリケーションの管理
PhraseServer	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはファイルに書き込まれます。
PhraseServerToMonitor	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはモニタに書き込まれます。
RSS	RSS クライアントからのボイスメールの確認に使用される RSS フィード
ReportDataHarvester	レポート データベース内のエントリに対するデータ ログ ファイル内の内容のカンバセーション

表 3-1 マイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
ResourceLoader	GUI での選択された言語の使用、製品またはメッセージ情報でのストリングの埋め込み
ResourceManager	使用可能なリソースを監視し、必要に応じて Arbiter に提供
RoutingRules	コールルーティングの決定
RulesEngine	コール中にサブスクライバの Cisco Unity パーソナル着信転送ルールを評価
SMTP	SMTP 機能
Scheduler	現在アクティブな Cisco Unity Connection スケジュール (通常の業務時間内または業務時間外) または休日
SslInit	OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順
SysAgent	管理者が入力するシステム タスク (MWI の再同期化など) をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント
TRaP	クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする、電話での録音と再生 (TRAP)
TextToSpeech	テキスト / スピーチ機能のアクティビティ
ThreadPool	プロセッサによるスレッドの使用
TimerHelper	Conversation Manager コンポーネントが使用するタイマー
TranscodeWeb	着信オーディオ ストリームを、Cisco Unity Connection が使用するオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ
UmssSysAgentTasks	システム エージェント コンポーネントのメッセージ タスク
UnityAssistant	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Assistant のアクティビティ
UnityInbox	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Inbox のアクティビティ
UnityPCTR	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity パーソナル着信転送ルールのアクティビティ
VUI	ボイス ユーザ インターフェイス
VirtualQueue	コール キューイング

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

マクロトレースの有効化

マクロトレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、MWI に問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロトレースを有効にします。ただし、トレースを実行するとシステムパフォーマンスとハードドライブスペースに影響が及ぶことに留意してください。



(注)

マクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マクロトレースを有効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Macro Traces] をクリックします。
[Macro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウンボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] をクリックします。
- ステップ 3** 有効にするマクロトレースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** マクロトレースを展開し、有効にするレベルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント

Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Cisco Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

使用可能なマクロ トレース

表 3-2 で、使用可能なマクロ トレースのリストを示し、それぞれのマクロ トレースの分析内容を説明します。

表 3-2 マクロ トレース

マクロ トレース名	トレースの分析内容
Call Flow Diagnostics	Cisco Unity Connection を通じてのコールのフロー
Message Objectid Tracking Traces	メッセージ処理。送信から削除までメッセージを処理するオブジェクト。
Call Control (Miu) Traces	コール コントロール機能
Traces for MWI Problems	メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
Traces for Other Notification Problems	通知機能とアウトダイヤル機能
Unity Startup	Cisco Unity Connection 起動機能
Voice User Interface/Speech Recognition Traces	ボイス ユーザ インターフェイス (VUI)
Media (Wave) Traces	メディアおよび WAV ファイル使用量
Text to Speech (TTS) Traces	テキスト / スピーチ (TTS) 機能。TTS と対話する別の Cisco Unity Connection コンポーネントにトレースを記録することもできます。
Connection Serviceability Web Service	Cisco Unified Serviceability のアクティビティ

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

参考情報

- [トレースの概要 \(P.3-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定 \(P.3-2\)](#)
- [マイクロ トレースの有効化 \(P.3-3\)](#)
- [使用可能なマイクロ トレース \(P.3-4\)](#)
- [マクロ トレースの有効化 \(P.3-7\)](#)
- [使用可能なマクロ トレース \(P.3-8\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*